

〈増補版〉

「やさしい日本語」作成のための ガイドライン



弘前大学社会言語学研究室

2013

はじめに

阪神淡路大震災から 15 年が経つ。同震災を契機として日本中の市町村が地域防災計画を大幅に修正した。『災害時における要援護者支援マニュアル作成指針』の整備も進んだ。

自治体による違いはあるが、その表現には、「あらかじめ外国人に理解できる言語およびやさしい日本語、または絵カード等で準備すること」や「外国人が居住する地域や外国人観光客の多い地域については、防災行政無線に多言語情報を追加したり、『やさしい日本語』を使用したりすることが必要である」、「多言語や『やさしい日本語』を用いた災害情報の提供方法、災害救援情報の提供」といった文言が使われている。

外国籍住民が多い自治体では、「多言語や『やさしい日本語』を用いた情報伝達体制の整備」を奨励したり「日本語で伝えられる情報が十分理解出来ない」外国人には「外国人に理解できる言語およびやさしい日本語」で「危険に関する注意喚起情報を伝える」ことを決めているところも多い。この 15 年で外国人には「やさしい日本語」で、という考えが定着したことを実感する。

一方で、「やさしい日本語」での災害情報の伝達を決めた自治体からは、「やさしい日本語」化の手順や規則、具体的な表現のしかたを学びたいとの要望が多く寄せられるようになった。そういった実務担当者たちからの社会的要請に応えるべく、社会言語学研究室の学生たちは、実習やゼミを通して「やさしい日本語」研究を進めてきた。ゼミの共同研究が 5 年を超したころからは、毎年、卒業研究で扱った研究成果が提出されるようになった。

このような経緯もあり、社会言語学研究室では、自治体やボランティア団体からの求めのとくに強い「やさしい日本語」化の方法について、これまでの卒業論文やゼミでの研究成果をまとめ、誰もが作れるようになるガイドラインをまとめることにした。本冊子がそれである。2005 年に刊行した『新版 災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル』と併せて活用いただければ、これまでに「やさしい日本語」研究に携わった学生や仲間ともども幸いである。

2010 年 1 月 17 日

弘前大学人文学部社会言語学研究室

教授 佐藤和之

【増補にあたって】

はじめに

「やさしい日本語」作成のためのガイドラインは、いわゆる「やさしい日本語」で表現するための文法書である。阪神淡路大震災から15年目の1月17日に刊行した。

外国人に情報を伝えたい人なら、誰もが等しく「やさしい日本語」にすることができる規則を記したものである。上掲「はじめに」で書いたように、「やさしい日本語」での災害情報伝達を決めた自治体実務担当者たちからの、「やさしい日本語」化の手順や規則、具体的な表現のしかたを学びたいとの要請に応えるべく刊行した。

刊行翌年の3月に東日本大震災が起きた。「やさしい日本語」は多言語の1つとしての役割を担ったが、現実には大きな変革を求められた。それまでの震災は72時間で収束し、またその頃には外国人対応の機関や支援団体が被災地に立ち上がり、それ以降は母語による復興への途を辿ってきた。だから「やさしい日本語」の役割は、多言語対応が不可能な発災からの72時間の情報を伝えることであった。

しかし、東日本大震災ではこれまで表現することのなかった災害が続いた。新たな「やさしい日本語」の語彙や文法が必要になったことを私たちは知った。

東日本大震災以前の「やさしい日本語」では、1文を24拍程度の短文で伝えることを推奨してきた。しかし、東日本大震災では72時間以降も「やさしい日本語」による様々な情報が求められ、情報量の増加に伴い、1文をどうしても長くせざるを得なかった。そこで私たちは、分かち書きの規則をこれまでの「やさしい日本語」文法に沿わせつつ、かつ長文になっても的確に伝わるための見直しをした。それが今回公開する『やさしい日本語』のための分かち書きルールである。ガイドラインの中では例文を多く用いて、初級日本語を学習したくらいの外国人も理解できる分かち書きの方法を具体的かつ詳細に説明した。

またこの分かち書きルールは、外国人留学生を対象にアンケート調査を行い、確実に情報が伝わるか、誤解が生じることはないかについての検証もした。

「やさしい日本語」で外国人に情報を伝えようとする皆さんには、安心して的確な情報を伝えてもらえるよう、研究室として努力したことに触れておきます。

2013年3月11日

弘前大学人文学部社会言語学研究室

教授 佐藤和之

目 次

I. 刊行の目的	1
II. 「やさしい日本語」とは	2
III. 「やさしい日本語」文の作り方	3
1 「やさしい日本語」の作成ルール	
コラム①「やさしい日本語」は難しい！？	5
2 書きことばの注意点	8
3 読みことばの注意点	10
コラム②「やさしい日本語」作成のための三種の神器！？	11
4 理解されやすい表現	12
練習問題	13
5-i 「やさしい日本語」を使ってポスターを作ってみましょう	14
5-ii ポスターのイラストを描く際の注意点	15
練習問題の模範解答	15・17
6 『やさしい日本語』のための分かち書きルール	19
IV. おわりに	25・26
V. 参考文献	27

I 刊行の目的

このガイドラインは、以下の3点を目的として作りました。

- ①「やさしい日本語」が外国人のための情報伝達に有効であることを知ってもらう
- ②ガイドラインを見ながら「やさしい日本語」の文を作れるようにする
- ③災害が起こったときに「やさしい日本語」を使って情報提供できるようにする

このガイドラインには「やさしい日本語」を使って情報提供する際のルールや注意点を、書きことば¹と読みことば²に分けて掲載しました。

このガイドラインの使い手には、まだ「やさしい日本語」についてよく知らない人、「やさしい日本語」に興味を持ってはいるが使ったことのない人、「やさしい日本語」についてもっと知りたいと考えている人を想定しています。外国人に災害に関する情報を的確に伝えようとする人に読んでもらい、「やさしい日本語」を使った情報提供に役立ててほしいと考えています。

なお、このガイドラインは、弘前大学人文学部に提出された下記の卒業論文を元に作られています。

秋田谷美代子（2003）「災害時情報のユニバーサルデザイン化」

小関雅子（2004）「災害時に伝える情報弱者のためのやさしい日本語研究－伝えるべき情報と使えることばの検証を中心に－」

斉藤庸子（2006）「台風や風水害時に使える「やさしい日本語」案文に関する一考察－伝えるべき情報とその表現様式について－」

成田有梨沙（2008）「『やさしい日本語』のやさしさに関する一考察－やさしさの基準を小学校教科書に現れる文構造に求め－」

三浦彩乃（2009）「やさしい日本語」研究の現状と展望に関する一考察－社会的ニーズに着目して－」

狩野絵里香（2012）「平常時における『やさしい日本語』の作成基準の検証に関する一考察－分かち書きと文構造について－」



¹ 書きことばとは、文字・表記による伝達のことばのことである。ポスターなどによる情報伝達の際に使用する

² 読みことばとは、音声による情報伝達のことばのことである。ラジオや防災無線、広報車などを使った情報伝達の際に使用する

II 「やさしい日本語」とは

「やさしい日本語」とは、災害が起きたときに「やさしい日本語」を使った音声で、日本語に不慣れな外国人を安全な場所へ誘導する日本語のことです。また避難先では、避難生活で必要になる情報を「やさしい日本語」で書かれた掲示物で伝えることも目的にしています。行政やボランティア団体による外国語支援が始まるまでの、概ね 72 時間の情報伝達を目的とした災害時用の外国人被災者のための日本語です。

この「やさしい日本語」は、日本語学習者が初期の段階で学ぶ約 2000 の語彙と、単文を主とした単純な構造からできていますので、日本語を学習しはじめた外国人でも、災害時に適切な行動が取れる表現になっています。ちょうど日本語能力検定試験の 3、4 級の日本語に相当します。日本語能力検定 3、4 級程度とは、友人と待ち合わせ（時間や場所を決める）ができたり、自分の欲しいものを説明して買い物ができたりする程度の能力のことです。

1995 年 1 月に起こった阪神・淡路大震災では、日本人だけではなく日本に来ていた多くの外国人も被害に遭いました。多くの外国人は日本語による災害情報や避難情報を得ることができずに、地震による物理的な被害だけではなく、情報の面でも被害を受け二重に被災してしまったのです。震災後、外国人や外国人対応を行った機関に対して聞き取り調査を行ったところ「地震のあと情報は盛んに流されたが、日本語ばかりでどうすればよいのかわからなかった」という声がよく聞かれました。中には、避難所にたどり着けず、壊れかけた家にずっと残っていたという人もいました。

日本語に不慣れな外国人にも確実に情報を伝えるためには、彼らの母語で伝えることが最も有効です。しかし、母語で伝えるといっても彼らの国籍は様々であり、また使用している言語も多様です。災害時には、重要な情報はたくさんあり、そのすべてを多言語に言い換えることは難しく、時間もかかります。また、日本に来ている外国人は母語が英語の人ばかりではありません。そのため、英語のみに依存すると、母語が英語でない外国人に避難情報や生活支援情報などが的確に伝わらなくなり、その結果多くの外国人を救うことが難しくなります。

実際のラジオ放送の一部

【普通の日本語】

けさ 7 時 21 分頃、東北地方を中心に広い範囲で強い地震がありました。
大きな地震のあとには必ず余震があります。
引き続き厳重に注意してください。



「やさしい日本語」に直したもの

【「やさしい日本語」】

今日 朝 7 時 21 分、東北地方で 大きい 地震が ありました。
大きい 地震の あとには 余震 あとから くる 地震が あります。
気をつけて ください

Ⅲ 「やさしい日本語」文の作り方

このガイドラインでは、皆さんが「やさしい日本語」を使って情報の提供ができるよう、「やさしい日本語」文の作成ルールについて説明しています。

まず、「やさしい日本語」文を作るときに必要な注意点についての説明をします。大切なことは「普通の日本語」と「やさしい日本語」の一語一語を対応させようとしないことです。忠実に翻訳しようとせず、伝えるべき内容の要点を翻訳するように心がけてください。

つぎに「やさしい日本語」では、日本語能力試験の3級程度までの語を使うことにしていますから、使える語に限られます。また1文を短くする必要もありますので、情報は限定されることを前提に「やさしい日本語」文を作成してください。

そのためには、災害が起きたあと何分までに何の情報を伝えるかを把握しておく、的確に情報を伝えることができるようになります。その目安として、災害発生時に必要となる情報を一覧表にしましたので参考にしてください。

表では、左端の縦軸に災害発生からの経過時間を記載しました。横軸には必要となる情報の種類を掲載しています。これらは1995年に起きた「阪神淡路大震災」のときに阪神地区で伝えられたラジオからの情報を時間軸に沿って整理したものです。それぞれの情報を伝えるときに、どのような表現がいいのかは、私たちの研究室が刊行している『増補版・災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル』のうちの「I 放送などに使う『やさしい日本語』の案文」を参考にしてください。<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/zouhomanual-top.html>からもダウンロードすることができます。

さて、このような「やさしい日本語」を使った表現は、日本語を母語とする人たちにとって不自然な日本語と感じる場合があります。しかし、日本語に馴れていない外国人には、こういう表現の方がわかりやすいようです。これらのことは、さまざまな国からの外国人を対象に確認して得られた結論です。



表：災害時に必要となる情報

時間	生活情報	交通情報	支援情報	自然情報	注意喚起情報	外国人関連情報
0h			避難所についての案内	震度震源	火災注意 頭上注意 周辺注意 余震注意 道路注意 運転注意 デマ注意	消防・救急についての情報
1h	停電 電話制限 電話被害 ガス被害	道路被害 鉄道被害 空路被害		浸水被害 余震被害	建物被害 火災被害	
2h 4h 6h	断水 食糧配給 病院	鉄道安全 通行止め	応急手当可能な避難所		避難時の注意 食中毒注意	外国語の通じる病院 外国語ラジオ情報
7h	金融特別措置 郵便局営業 ガス配給停止 店舗営業	鉄道運行再開	トイレ情報		二次災害注意 避難勧告	
9h	電気復旧 電話復旧	鉄道復旧				
14h	休校					国際電話のある場所
15h	ガス復旧					外国人相談窓口
17h						留学生安否連絡
19h						外国人安否連絡
20h	臨時電話設置		救援物資			
23h		鉄道運休				
24h	給水		お風呂情報			
26h	給水場所					
27h	給水制限					
37h	水道復旧					
45h	無料電話サービス					
47h	給水制限					
72h	ごみ収集					

※時間とは、災害発生時からの経過時間を示す

Ⅲ－① 「やさしい日本語」の作成ルール

(1) 難しいことばを避け、簡単な語彙を使ってください

語彙は日本語能力試験出題基準3、4級（最も初級）の語を使います。日本語能力試験3、4級程度とは、友人と待ち合わせ（時間や場所を決める）ができたり、自分のほしいものを説明して買い物ができたりする程度の能力のことです。

語彙レベルは、「日本語読解システムリーディングチュウ太」³のホームページで調べることができます。

①助詞

助詞によって使えるものと使えないものがあります。そのため、語彙レベルを判定してから使用してください。また、方向を表す場合は、「へ」を用いてください。これは、「に」や「で」は用法が数種類あるのに比べ、「へ」は用法が方向の一種のみだからです。

例：川に 行かないで ください → 川^{かわ}へ 行かないで ください

②文末表現

「かしら」「ぜ」「ぞ」は、3級までの文法から逸脱するため、できるだけ使用しないようにしてください。

例：ごみは ここに 捨てて くれるかしら
→ごみは ここに 捨て^すてて ください

コラム 「やさしい日本語」は難しい！？

外国人を「やさしい日本語」を使って救うためには、「やさしい日本語」の文章やポスターを作ってくれる日本人が必要です。しかし、書きことばと読みことばのそれぞれに作成ルールがあり、使える単語も限られているため、普通の文章を作る何倍もの労力を必要とします。日本人にとって伝わりやすい日本語であれば比較的簡単に作れますが、しかしそれでは外国人に分かりにくい日本語になってしまうでしょう。時間がかかっても、「やさしい日本語」のルールに沿った文章を心がけるようにしましょう。そうすることで、外国人に分かりやすく情報を伝えることができるようになります。外国人の立場に立って、外国人にとって理解しやすい日本語で伝えたいものです。

「やさしい日本語」を使う皆さんは、本当に「やさしい人」ですね♪

³ 「日本語読解システムリーディングチュウ太」 <http://language.tiu.ac.jp/tools.html>

(2) 1文を短くして、文の構造を簡単にしてください

1文の長さは24拍程度です。長くなっても30拍は超えないようにしてください。1拍は平仮名1文字に相当します。例えば「余震」は「よしん」なので3拍となります。文節の数は10文節程度を目安にしてください。

また、文節とは、意味が不自然にならない程度に文を区切ったときの最小の単位のことです。基本的には、文の途中に「ね」などのことばを入れて切ってもおかしくないところで区切ります。

例：今日、朝地震がありました

→ 今日^{きょう}ね 朝^{あさ}ね 地震^{じしん}がね ありました

さらに詳しく分かち書きの方法を知りたい方は、P19の『やさしい日本語』のための分かち書きルールをご覧ください。より詳細な分かち書きの方法として、2つの基本ルールと2つの例外ルールの解説をしています。

文構造を簡単にする場合には以下の点に注意してください。

①主語と述語を一組だけ含む文にしてください

例：余震が起きるおそれもあるため、余震に対して十分に注意してください

→ 余震^{よしん}（後^{あと}から 来^くる 地震^{じしん}）に 気^きをつけて ください

②連体修飾節（名詞を説明している部分）の構造を単純にしてください

例：地震の揺れで壁に亀裂が入ったりしている建物

↑

連体修飾節（「建物」を下線部の語が説明しています）

→ 地震^{じしん}で 壊^{こわ}れた 建物^{たてもの}

(3) 外来語を使用するときは気をつけてください

外来語は原語と意味や発音の異なるものが多いため、使用するときには注意してください。

例：ダイヤル → 原語とは発音が全く異なっています

ライフライン → 原語とは意味が異なっています

デマ → 原語では行われぬ省略です

外来語の中でも、日本語能力試験3、4級程度の語で、外来語以外での表現が難しいものは使うことができます。

例：バス、ガス、ガラス、テレビ、ラジオ

(4) 擬態語は、日本語話者以外には伝わりにくいので使用を避けてください

例：めちゃめちゃ、どきどき、きりきり

(5) 動詞を名詞化したものはわかりにくいので、できるだけ動詞文にしてください

例：揺れがあった	→	揺れた
↑		↑
「揺れ」は名詞		「揺れる」は動詞

(6) あいまいな表現は、避けてください

① 「おそらく・・・」「たぶん・・・」などの表現は、使用しないでください

例：おそらく津波がきます
→津波が来るかもしれません

② 「・・・したりしている」のようなあいまいな表現は避けてください

例：亀裂が入ったりしている
→壊れた

(7) 二重否定の表現は避けてください

「通れないことはない」、「使えないわけではない」などの二重否定の表現は、外国人だけでなく、日本人にとっても混乱を招きやすい表現です。

例：通れないことはない	→	通ることが出来ます
-------------	---	-----------

(8) 文末表現はなるべく統一するようにしてください

①可能 「することができます」

例：火を使えます	→	火を使うことができます
燃えるゴミ	→	燃やすことができる ゴミ

可能表現は「れる」「られる」でなく「することができる」としてください。これは日本語初級の学習者が一番はじめに「～ができる」という表現を習得するためです。

また、不可能の表現は、「することができません」としてください。

例：電話は使えません	→	電話を使うことができません
------------	---	---------------

②指示 「～てください」

例：手を洗いましょう	→	手を洗ってください
------------	---	-----------

指示文末は「～しましょう」ではなく、「～してください」とします。「～ましょう」には指示以外にも勧誘の意味もあるので、「～してください」の方がわかりやすいです。

Ⅲ－② 書きことばの注意点

【1】文は文節で余白をあけて区切り、分かち書きにしてください

分かち書きとは、文節の間に間隔をあけて文章を書く方法のことです。

さらに詳しい分かち書きの方法を知りたいときは、P22の『やさしい日本語』のための分かち書きルール」をご覧ください。より詳しい分かち書きの方法として、2つの基本ルールと2つの例外ルールについて解説しています。

例：東北地方で大きい地震がありました
→^{とうほくちほう}東北地方で ^{おお}大きい ^{じしん}地震が ありました

【2】日本語に不慣れな外国人にとって、難しいと思われることばでも災害時にはよく使われます。そのため、知っておいた方がよいと思われることばはそのまま使い、そのことばの後に<>を使い言いかえを付記してください

例：「消防車」 → ^{しょうぼうしゃ}消防車<^ひ火を ^け消す ^{くるま}車>
「余震」 → ^{よしん}余震<あとから ^く来る ^{じしん}地震>
「避難所」 → ^{ひなんじょ}避難所<みんなが ^に逃げる ^{ところ}ところ>
「炊き出し」 → ^た炊き出し<^{あたた}温かい ^た食べ物を ^{つく}作って ^{くぼ}配る>
「津波」 → ^{つなみ}津波<とても ^{たか}高い ^{なみ}波>

※言いかえを付記する語彙の基準については、社会言語学研究室ホームページ「外国人用地震災害基礎語彙100」を参考にしてください（巻末のアドレスを参照してください）

【3】ローマ字は使わないでください

ローマ字は、駅名や地名などの固有名詞を表記するためのもので、文を書くことには不向きです。ローマ字を使って日本語の文を表記することはしないでください。

【4】使用する漢字や、漢字の使用量に注意してください。漢字にはふりがなをふってください

掲示物や配布物を作る時は、漢字を使った方が漢字圏の人にわかりやすいという利点がありますが、使用する語彙や割合に注意してください。語彙は日本語能力試験出題基準3級、4級程度（P5脚注参照）の語を使います。漢字の使用量は1文に3、4字程度が目安です。また、必ず全ての漢字にふりがなをふってください。

例：^{あたま}頭の ^{うえ}上に ^き気をつけて ください
^{でんわ}電話を ^{つか}使うことが できます

同音異義語を書くときは級外の漢字でも使用した方がわかりやすい場合があるので、漢字で表記してください。

例：手を ふいて ください → 手を 拭いて ください
「拭く」を「吹く」と誤解する可能性があるためです。

【5】時間や年月日の表記はわかりやすくしてください。以下の用例に従ってください

①時間を表す助詞は記号「～」ではなく、「・・・から」に統一してください

例：電気を【午前・午後】〇〇時〇〇分～使うことができます
→電気を 【午前：午後】〇〇時〇〇分から 使うことが できます

②時間は12時間表記で書いてください

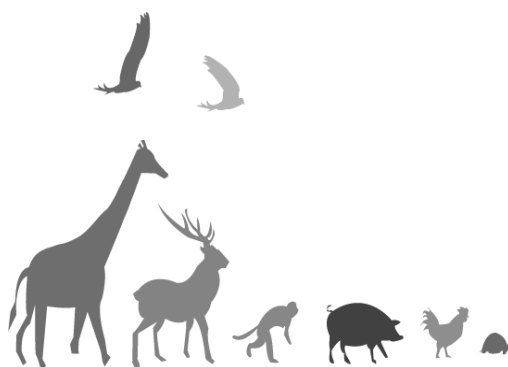
例：21時30分
→午後9時30分

③年月日の表記にはスラッシュを使わないでください

例：2013/3/11
→2013年3月11日

④元号は使わないで、西暦で書いてください

例：「平成25年3月11日」
→「2013年3月11日」



Ⅲ－③ 読みことばの注意点

読みことばの「やさしい日本語」を作成する際の基本的なルールは、難しいことばを避けて簡単な語彙を使うという点で、書きことばでのルールと変わりありません。しかし、読みことばで情報を提供するときは、文章を読むスピードや、間の取り方などにも配慮する必要があります。特に気をつける点は、以下の点です。

- ① 読み方は、**全体的にゆっくりと、一語一語はっきり**発音してください

1分間に280拍くらいを読むことを目安にしてください

- ② 日本語に不慣れな外国人にとって難しいと思われることばでも災害時にはよく使われます。知っておいた方がよいと思われることばはそのまま使い、そのことばの後に言い換え表現を続けて使用してください。そうすることで、外国人が災害時に必要となることばを理解し、覚えることができるからです。(詳細を知りたい方は、社会言語学研究室ホームページ「外国人用地震災害基礎語彙100」⁴をご覧ください)

例：「消防車□火を□消す□車」「救急車□病院の□車」

- ③ 文節の切れ目や、文と文の間にポーズを入れて読んでください

ポーズを設ける基準は、原則的には話し手の判断によります。語と語とのつながりや意味の切れ目を意識し、ポーズを置くことが大切です。強調したい語の前後や、言い替えの語の前でもポーズを置きます。

例：できるだけ□電話を□使わないでください■

余震□あとから□くる□地震

凡例：短いポーズ→□、長いポーズ→■

- ④ **いつ(時間)、どこで(場所)、だれが、何を**する、「…してください」、「…に注意してください」などはくりかえし言って、**強調**してください

- ⑤ 数字の読み方は下の表を基本とします

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ゼロ	イチ	ニ	サン	ヨン	ゴ	ロク	ナナ	ハチ	キュウ	ジュウ

日時を言うときは、すべて表のとおりに読んでください。

ただし、例外もあります、 → 9時=くじ 4時=よじ

- ⑥ カタカナ外来語を使わないでください。使うときはその語の概念も説明します

例：プラグを□抜いて□ください■

プラグは□電気が□流れる□線です■

プラグを□穴にさすと□電気が□流れます■

プラグは□テレビ□冷蔵庫などに□ついています■

⁴ 社会言語学研究室ホームページ「外国人用地震災害基礎語彙100」
<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/Default.htm>

⑦ 同音、または音が似ている語はなるべく使わないでください
例：「紙」と「髪」、「格好」と「学校」、「拭く」と「吹く」など

⑧ 1文は1情報にしてください

例：車を離れるときは、エンジンを切り、キーはつけたままにしてください

↓
車を□おりるとき□車の□エンジンを□とめてください■車の□鍵を□とらないで□ください■

コラム 「やさしい日本語」作成のための三種の神器！？

「やさしい日本語」の作成ポイントを、いろいろと説明して来ましたが、でもいざ作成しようとするとなんか手をつけようか迷ってしまうかもしれません。このコラムでは、「やさしい日本語」を作成するときの強い味方となってくれるシステムを紹介します。

○日本語読解学習支援システム リーディングチュウ太

「やさしい日本語」のポイントのひとつ、「日本語能力試験3、4級程度」という基準を満たしているかどうかを簡単に確認できるシステムです。ことばを入直すると、そのことばそのものと、使われている漢字が日本語能力試験の何級かを知ることができます。そこで3、4級と判断されたことばはそのまま、1、2級や級外と判断されたことばは言い換えて「やさしい日本語」にしていきます。

川村よし子（東京国際大学）、北村達也（甲南大学）(<http://language.tiu.ac.jp/>)

○やんしす：やさしい日本語支援システム

「やさしい日本語」化した文章のチェックに使うことができるシステムです。文章を入力すると「難しい単語です」「ほとんど理解してもらえません」「文が長すぎます」というように判定してくれます。

伊藤彰則（東北大学）(<http://www.spcom.ecei.tohoku.ac.jp/~aito/YANSIS/>)

○東日本大震災で伝えた「やさしい日本語」

～知りたい情報と表現方法を抜き出すための検索機能～

東日本大震災で実際に作成した「やさしい日本語」文をキーワードから探すことができます。「やさしい日本語」の基本の文型や外国人によく伝わる情報の配列順などを知ることができます。「やさしい日本語」を作成するときの参考にしてみて下さい。

弘前大学社会言語学研究室 (<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/touhoku.htm>)

Ⅲ－④ 理解されやすい表現

「やさしい日本語」の文を作るときに、理解されやすい表現についての研究結果を掲載します。「目的」は、どういったことを伝えたい時に用いるのかということ、その右側にある「表現」はそれをどう表現するかということを示しています。つまり、「目的」を伝えたいときには、「表現」にあるような言い方をすれば、外国人にも分かりやすいということです。「やさしい日本語」の言い替え表現を作る際の参考にして活用してください。

目的	表現
道路渋滞	道は 車で いっぱいです
火災発生	火事が 起きました
電話混線	電話は いそがしいです
電車運休	電車は とまっています
ごみ収集	ごみを 集める
営業	～は やっています
郵送	手紙を 出す
注意の呼びかけ	気をつけて ください
下車	車から おりる
無料	お金は ありません
ガス漏れ	ガスが 出る
崖	山

「やさしい日本語」は日本語能力試験出題基準3級・4級程度の語を対象にしています。日本語能力試験出題基準1級、2級にあたる語は使わないで伝えたい情報を表現することが望ましいと考えられます。しかし、実際に災害が起こったときにある程度混じってしまうことはやむを得ません。

たとえば「コンセント」「エンジン」「電気」などは日本語能力試験出題基準2級の語ですが、使う場合があります。

例：

目的	表現
コンセントを抜く	コンセントを とる
エンジンを切る	エンジンを とめる
懐中電灯	手に 持つ 電気

* * 練習問題 * *

これまでに学んだ「やさしい日本語」の作成ルールにしたがって、通常の日本語を「やさしい日本語」に直してみましょう！

問1 ドアや窓を開けて、避難する場合に備えてください。

答え

【注意点】

- ・重要度が高い情報に絞り込みます。次に文を短くするため、2文に分けます（→P6 **1** (2) 参照）
- ・「避難」は「逃げる」に、「備える」は「準備」のように、難しいことばを簡単なことばに置き換えます（→P5 **1** (1) 参照）
- ・文節で余白をあけて、漢字には振り仮名をふります（→P8 **2** 【1】【4】参照）

（模範解答は、P15 下段にあります）

問2 地震の揺れで壁に亀裂が入ったりしている建物には近づかないようにするなど、余震に対して十分に注意して欲しいと呼びかけています。

答え

【注意点】

- ・重要度が高い情報に絞り込みます。次に文を短くするため3文に分けて、文の構造を簡単にします（→P6 **1** (2) 参照）
- ・「亀裂」のような難しいことばを、簡単なことばに置き換えます
- ・「余震」は災害時にもよく使われることばなのでそのまま使い、<>を使って言い換えを付記します（→P8 **2** 【2】参照）
- ・文節で余白をあけて、漢字にはふりがなをふります

（模範解答は、P17 下段にあります）

Ⅲ-⑤-i 「やさしい日本語」を使ってポスターを作ってみましょう

「やさしい日本語」を使った情報提供の1つに、掲示物（ポスター）による方法があります。

掲示物やポスターは、ラジオなどと違って情報を聞き逃すということがありません。また、繰り返し読んで情報を確認できるため、外国人に掲示物を使って情報を伝えることはとても有効です。それでは以下の例を参考に、「やさしい日本語」で外国人に情報提供を行うためのポスターを作ってみてください。

掲示物を使って情報を伝えるのに適した場所としては、避難所や病院、銭湯などがあります。しかし避難所などにはたくさんの掲示物が貼りだされるため、コンパクトだけれども目立つポスターを作成する必要があります。ここでは、外国人の目を引くようなポスターを作るための要点をまとめました。

以下に「やさしい日本語」を使ったポスターの作り方を図示しましたので、「やさしい日本語」の作成ルールとともに参考にしてみてください。

<ポスターを作るときの注意点>

注意 Attention 주의 Atencão

か
買うことができます

①

②

③

④

⑤

⑥

水を 買うことができます

50 円

〇〇スーパー 〇〇店

午前・午後 10時30分から
午前・午後 8時00分まで

(作った 日) 2013 年 3 月 11 日 (作った ところ) 弘前大学

- ①外国人に注目してもらえよう、はじめに複数の言語で見出しを付ける
- ②見出しは大きく書く
見出し語は動作を表すことばにする
- ③情報の内容にあったイラストを載せる
イラストは重要な要素だけを描く
(手書きでも構わない)
- ④伝えたい情報や行動を指示することばを「やさしい日本語」を使って書く
- ⑤場所などの説明が必要なときは、大きく書く
- ⑥作成した年月日、作成した機関の名前を書く
年月日は、〇〇年〇月〇日の形で明記する
また、年は西暦を使う

このポスターにはありませんが、必要に応じて地図などを付けるとよりわかりやすくなります。地図を載せる場合は、最小限の情報だけを描くようにします。

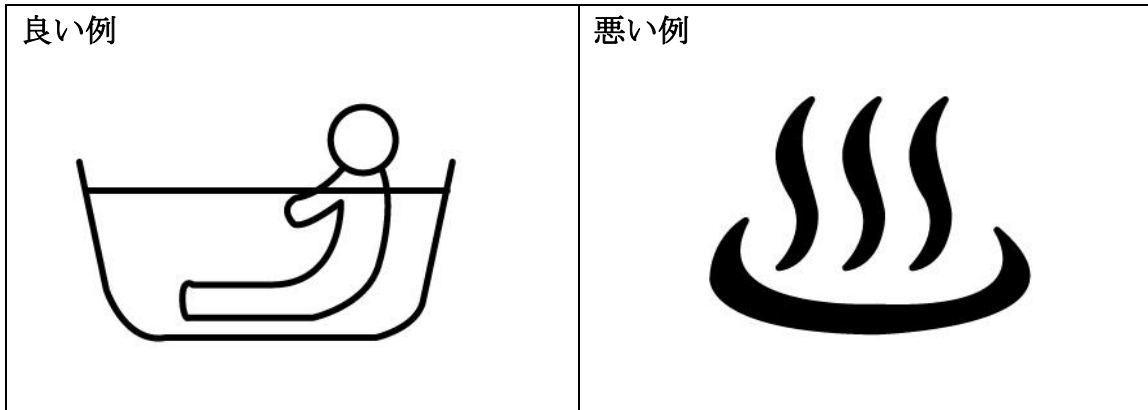
III- ⑤- ii ポスターのイラストを描く際の注意点

ポスターのイラストを描く際の具体的な注意点は以下の通りです

①見てすぐ理解できるものを描いてください

情報を象徴する一般的なものを描きます

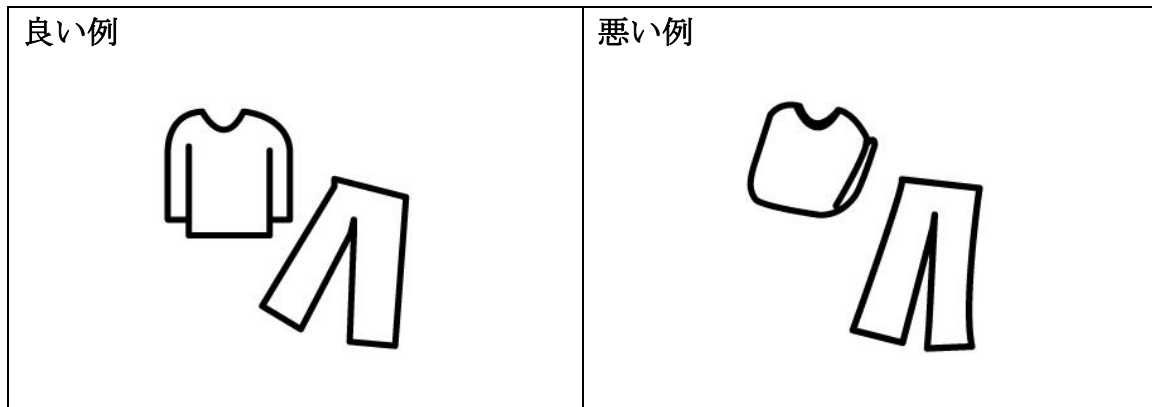
- ・温泉のマークは、外国人にも温泉というイメージが強く、一般的な風呂を表す記号としては不適切です



②できる限り具体的に、明確に描いてください

具体的な品物や人を描き、形状も把握しやすいように描きます

- ・衣服をたたんである状態は紙の上ではわかりにくくなってしまう



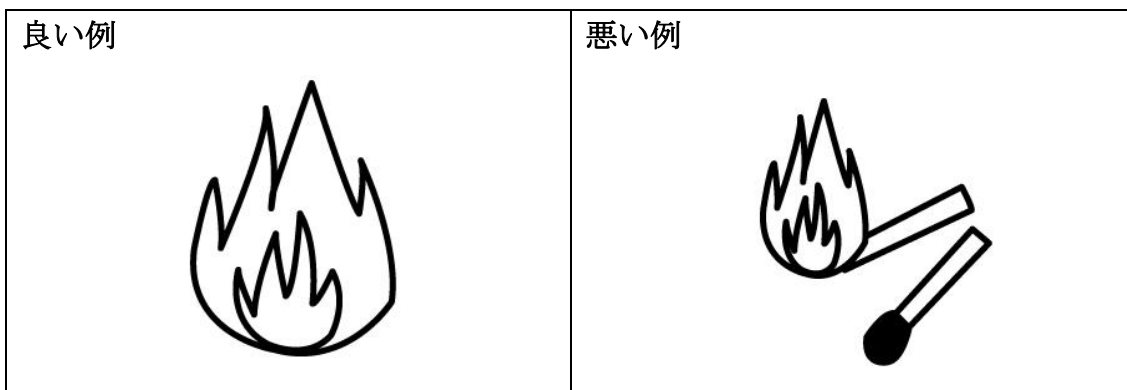
÷÷

P13 練習問題 問1の答え

模範解答 ドアや窓を^{まど}開けて^あください
逃げる^に準備^{じゆんび}をしてください

③多くの要素を詰め込みすぎないでください

- ・「火」の絵だけでも充分伝わります。マッチを加えることで図を複雑にし、分かりにくくなってしまいます

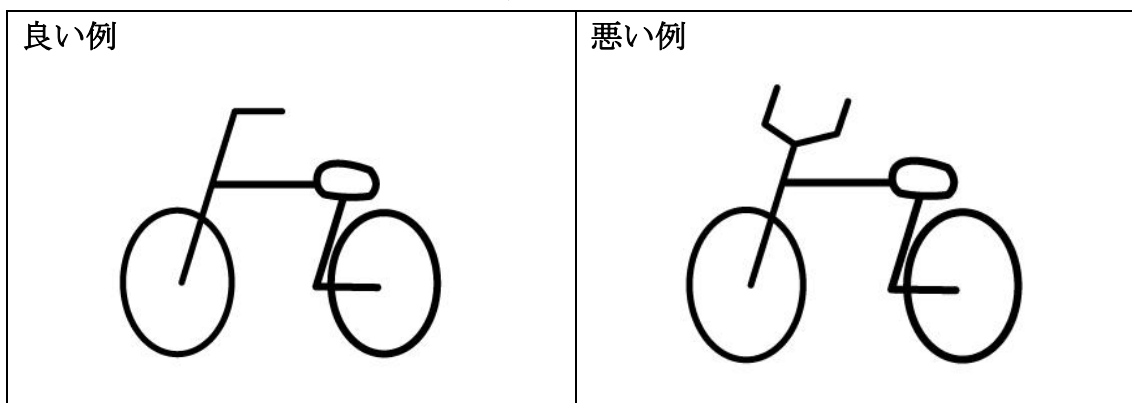


④単純化を心がけてください

使えるところは直線を使用してすっきりさせます

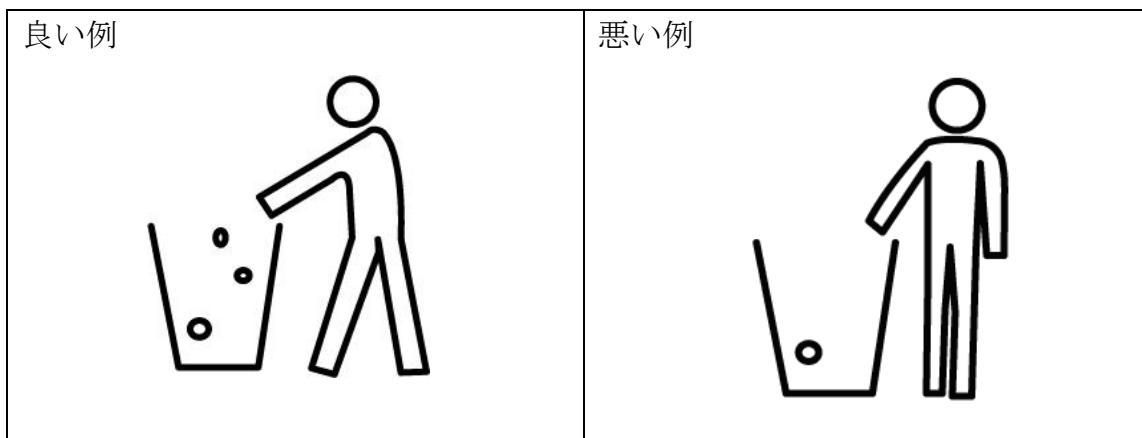
アウトラインは太目の線で描くなどして、見やすくしてください

- ・線が多くなると絵が複雑になり、理解しにくくなってしまいます



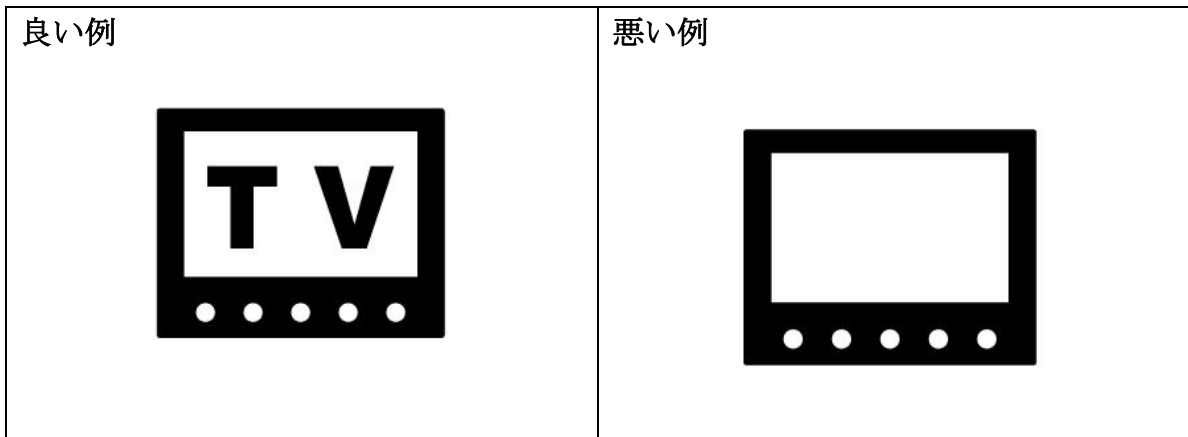
⑤情報に動きを必要とするものであれば、組み合わせや配置を工夫します

- ・動きがないと人とごみばこの間に結びつきがなくなり、分かりにくくなってしまいます



⑥簡単な言葉を加えるなどして意味を限定してください

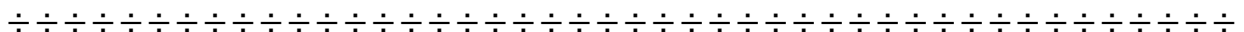
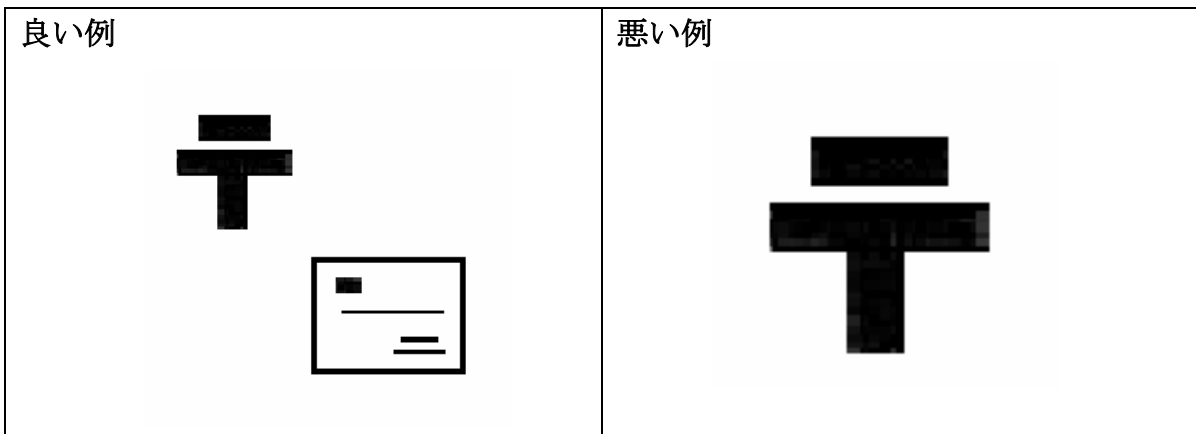
・テレビの形状だけだと分かりにくくなります



⑦文化的な背景を持つ記号の使用に注意してください

例：郵便のマークは世界共通ではないので、使う際には注意が必要です。意味が理解できるように「〒」と共に封筒の絵を補います

・外国人には「〒」は見慣れないマークなので、これだけでは、理解しにくくなってしまいます
 しかし、日本においてはよく使われ、知っておいた方が便利だと考えられるため、意味が理解できるように「〒」と共に封筒の絵を補います




P13 練習問題 問2の答え

模範解答 地震で こわれた 建物に 気をつけて ください
 余震〈あとから 来る 地震〉に 気をつけて ください
 この後も 気をつけて ください

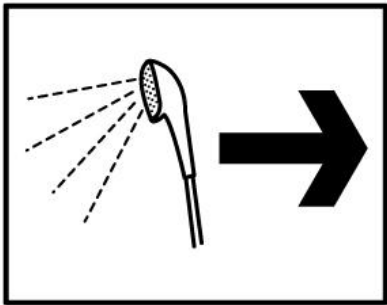
次に、図記号を使うときの注意点です。否定（禁止）・肯定（安全）・注意・方向を表現する際の注意点については、以下の通りです。

指示に関する記号


飲むことは できません
否定を意味する記号 「×」という記号を使用し、図記号の上に大きく描いてください。


薬が あります
肯定を意味する記号 肯定を表す際は、記号を何もつけないでください。「○」は、外国人には肯定の意味で伝わらない可能性があるからです（十字マークについては※参照）


注意して 火を 使ってください
注意を意味する記号 「△」の中に「！」を描いてください。


シャワーは 右に 行くと あります
方向を指示する記号 図記号の認識を邪魔せず、方向をしっかりと示します。矢印は黒塗りにしてください。

※十字のマークは、黒く塗りつぶすと赤十字のマークを連想させます。日本では、医療に関わるものという意味で十字のマークが使われていますが、赤十字のマークとは意味が異なるため、白抜きの十字マークが使われています。ここでも日本の通例に従い、赤十字のマークと区別して、白抜きの十字マークを使用します。

Ⅲ-⑥ 「やさしい日本語」のための分かち書きルール

「やさしい日本語」には、文を分かち書きにするというルールがあります。ここでは、掲示物等で「やさしい日本語」を使用する際の分かち書きの仕方について、詳しく説明します。

この分かち書きルールは外国人留学生 21 人にアンケートを行い、確実に情報が伝わるかや、誤解を生じることがないかなどについての検証を行いました。

また、この分かち書きルールは社会言語学研究室が提案する「やさしい日本語」のためのルールですので、一般に使われる学校文法のそれとは少し異なる点があります。

「やさしい日本語」のための分かち書きルールには、2 つの基本ルールと 1 つの例外ルールがあります。

基本ルール 1

文節の間に余白を空けて区切り、分かち書きにする

- 文節とは・・・文章を意味のまとまりで区切った単位のことです。
- 分かち書きとは・・・文節の切れ目ごとに余白を設けることです。



分かち書きにすることで、外国人は文の意味を理解しやすくなります。

それでは、ある 1 文をどのように分かち書きにすればいいのでしょうか。

『やさしい日本語』の作成ルール」の P6 では、文の途中に「ね」や「き」などのことばを入れても不自然にならないところで分かち書きをすると説明しています。

例 1) 津波が来ます

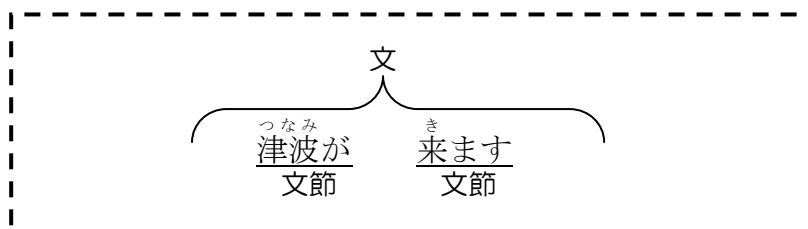
⇒津波が^{るなみ}ね^き来ます

これを文法的に説明すると、自立語の前で区切るということになります。

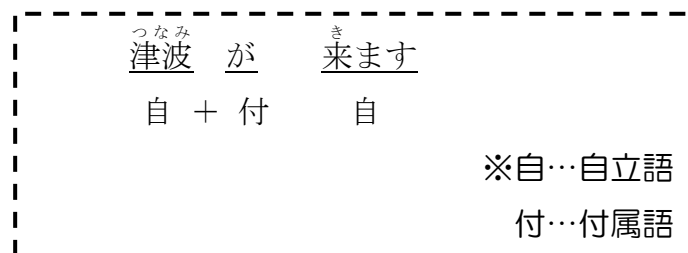
《自立語と付属語》

文法的な面からもう少し詳しく解説します。

ひとつの文は複数の文節からなります。



そして、文節は自立語だけ、あるいは自立語プラス付属語で構成されています。



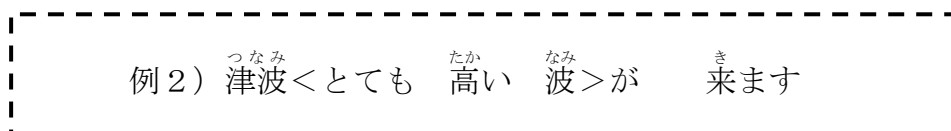
自立語とはその語だけで意味を持ち、文節を構成することができる語のことです。具体的には、名詞、動詞、形容詞、形容動詞、副詞、連体詞、接続詞、感動詞を指します。

付属語とは自立語に対して、その語だけでは文節を構成することができない語のことです。助詞や助動詞を指します。

《文節の区切り方》

文節とは、文を意味のまとまりで区切った単位のことです。つまり、文節は1つの自立語のみ、もしくは自立語とそれに接続する付属語によって構成されていると言えます。言い替えると、文節は必ず自立語から始まるということになるので、文節は自立語の前で区切ると考えましょう。

このことを踏まえて「やさしい日本語」の文章を分かち書きしてみました。難しい語の言い換えや、ルビも加え、「やさしい日本語」の表記にしています。



<>の中も分かち書きするのを
忘れないでくださいね



基本ルール2

「つなげる語群」は分かち書きにしない

基本ルール1では、文節を自立語の前で区切って分かち書きにすると説明しました。しかし、自立語である名詞・動詞・形容詞には、その語本来の意味や独立性が弱くなっていて、おまけのように使われているものがあります。それらは補助動詞、補助形容詞、形式名詞などと呼ばれています。

例えば、「痛くなる」の「なる（補助動詞）」、「壊れやすい」の「やすい（補助形容詞）」、「食べること」の「こと（形式名詞）」などです。これらを漢字で書くと、「成る」「易い」「事」なのですが、使われ方を見てもわかるように、その語が持っている本来の意味が弱まってしまっています。すなわち語としての独立性が弱いと考えるわけです。

動詞や形容詞、名詞は自立語ですから、基本ルール1に則って、文節として独立させるべきです。しかし、補助動詞、補助形容詞、形式名詞を含む「つなげる語群」（※後述）は、その意味の弱まりから、「やさしい日本語」では文節として独立させず、前の節に続けることとしました。分かち書きをしないことで、外国人にとって意味が取りやすくなるためです。

また、「病気になる」の「なる」や、「仕事をする」の「する」といった助詞に続く「なる」と「する」も、アンケートでは分かち書きをしないほうが外国人にとってわかりやすいという結果になりました。そのため「なる」と「する」も「つなげる語群」に含んでいます。

～間違いやすい代表例 Best 3～

1位：準備を して ください

⇒正解は…「準備を**して** ください」

(※「して」は「する」の活用なので「して」も分かち書きをしません)

2位：熱中症に ならないように 気をつける

⇒正解は…「熱中症に**ならないように** 気をつける」

3位：止まるかも しれません

⇒正解は…「止まるかも**しれません**」

(※「しれない」は「知る」という本来の意味が弱まっているため分かち書きをしません)

《つなげる語群一覧》

ここでは「やさしい日本語」で使用されることが考えられる「つなげる語群」について説明します。「つなげる語群」とは、「やさしい日本語」の文において、前の語と必ず接続することばのグループです。それらを具体的に挙げます。

～おく ～ある ～みる ～いる ～くれる ～しまう ～する
～いく ～くる ～あげる ～なる ～やすい ～にくい
～ない（「ぬ」に言い換えられないもの） こと ところ とき もの
人 ～のよう ～のため くらい

※「気をつけて」の「つけて」と、「～かもしれない」の「しれない」も独立性が弱まっていると見なし、分かち書きをしません

～「ある」と「いる」コラム～

「ある」と「いる」は、「困っている」や「置いてある」のように状態を表している場合と、「医者がある」や「そこにある」のように存在を表している場合があります。

状態を表す「ある」と「いる」は先ほどの「つなげる語群」に含まれているため、分かち書きはしません。しかし、存在を表す「ある」と「いる」は本来の意味がそのまま使われている独立性の強い語であるため、基本ルール1に則り分かち書きにします。

このように、同じ語であるのに場合によって分かち書きのルールが変わってしまうのは、みなさんにとって分かりづらいものとなります。

そこで、存在を表す「ある」と「いる」は、助詞の「は」「も」「の」「が」「に」に続くことから、

「刃物蟹（ハモノガニ）」に続く「ある」と「いる」は分かち書きをするというように覚えると、分かりやすくなります。



例外ルール 1

「ください」と「ところ」は分かち書きにする

「～くれる」の敬語である「ください」は、本来「つなげる語群」に含まれる独立性が弱まった補助動詞ですが、前の節につなげると一文節が長くなってしまいますので、分かち書きにすることとしました。

また、「ところ」は「やさしい日本語」で使用するとき、「出かけるところだ」のような時間の一地点を示す使い方ではなく、「楽しいところがある」のような場所を示す使い方をする場合ほとんどです。そのため、「やさしい日本語」で使用する場合には、語の独立性はそれほど弱くないと考えました。

以上のことから、「ください」と「ところ」は例外的に分かち書きにします。

それでは、「やさしい日本語」文を分かち書きにした例を見てみましょう。

例 1 コンビニが開いています

コンビニ/^あ開い/て/い/ます

名詞/助詞 動詞/助詞/補助動詞/助動詞

「開いています」は「開いている」の丁寧な表現です。この「いる」は本来の意味が弱まっているので、分かち書きをしません。

例 2 頭の上に気をつけてください

^{あたま}頭/^{うへ}の ^き上/^きに 気/^きを/つけ/て ください

名詞/助詞 名詞/助詞 名詞/助詞/補助動詞/助詞 補助動詞

「気をつけて」の「つけて」は語としての独立性が弱いいため、分かち書きをしません。「ください」も語の独立性は弱いですが、前の語と連結させてしまうと一文が長くなってしまうため分かち書きをします。

例 3 建物が壊れやすいです

^{たてもの}建物/^{こわ}が 壊れ/^{こわ}やすい/です

名詞/助詞 動詞/補助形容詞/助動詞

「壊れやすい」の「やすい」は「易い」という本来の意味が弱まっているので、分かち書きをしません。

分かち書きルールに基づく分かち書き一覧

「やさしい日本語」の分かち書きルールを一覧表にしてみました。また、例外ルールを適用するものと同じ語彙でも分かち書きルールが変わるものには網かけをしています。

語彙	使用例
する	・準備(を)する ・用意して ・仕事をさせる
なる(成る)	・必要になる ・取らなければならない
ある(有る)	・置いてある ・臨時便が あります
いる(居る)	・困っている ・医者が いる
くる(来る)	・逃げてくる
ついて(就いて)	・放射線について
しれない(知れない)	・危ないかもしれません
いく(行く)	・持って行って
ない(無い)	・カードなどがなくても
はじめる(始める)	・作りはじめる
くれる	・紹介してくれる
あげる	・助けてあげる
もらう(貰う)	・払ってもらう
とる(取る)	・受け取る
しまう	・死んでしまった
～にくい	・流れにくく
～やすい	・なりやすい
こと(事)	・使えること
とき(時)	・帰ったとき
もの(物)	・必要なもの
人	・背が 高い人
よう(様)	・絵のように
ため(為)	・ならないために
くらい(位)	・どのくらい
ところ(所)	・作った ところ
ください(下さい)	・行かないで ください

IV おわりに

この冊子は、「やさしい日本語」をより多くの人に知ってもらうことと、災害が起きたときに「やさしい日本語」を使って情報提供ができるようになってもらうことを願って作られました。「やさしい日本語」をよく知らない皆さんでも手軽に読めるように「やさしい日本語」文を作るための最小限の情報に絞り、作り方を詳しく説明しました。また、弘前大学人文学部社会言語学研究室に提出された卒業論文で明らかになった、最新の情報も盛り込んでいます。詳細については『新版・災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル』（2005）や、社会言語学研究室のホームページ所載の「やさしい日本語」文の作り方などを参考にしてください。

「やさしい日本語」を知らなくても、災害時に外国人を救うという「やさしい日本語」の意図や効果を知ることによって理解を示し、自ら使用したいと考える人も多くいます。災害時の情報伝達手段として、やさしい日本語を使用することを、地域防災計画の中に加えている自治体もあります。

現在の研究では、「やさしい日本語」を、災害から 72 時間以内に使用することを想定して作っています。しかし、社会からは災害時だけでなく、平常時にも掲示物などで情報を分かりやすく伝えることや、外国人とのコミュニケーション手段として活用することが期待されています。私たちは、そのような社会のニーズに答えられるようになることが今後の課題であると考えています。

一人でも多くの外国人の命を救うため、皆さまのご理解とご協力をお願いします。

編集責任

秋山 ひかり

氏江 南

相馬 咲恵



【増補にあたって】

おわりに

2013年3月11日で、東日本大震災から2年が経ちます。東日本大震災では「やさしい日本語」の有用性を実感するとともに、新たな課題も突きつけられました。それを踏まえて、この度『やさしい日本語』作成のためのガイドライン』を増補版として刊行します。

「やさしい日本語」は発災から72時間以内の利用を想定して作られた表現です。1文24拍という短文で、日本語初級レベルの外国人にも適切に情報を伝えることを目的としています。しかし、東日本大震災では、「やさしい日本語」による情報伝達が72時間以降も必要とされました。「放射線」や「計画停電」など、今までの「やさしい日本語」では想定していなかった語についても説明が求められ、必然的に情報量も多くなっていきました。そこで、「やさしい日本語」のポイントの1つである分かち書きの見直しを行い、新たな『やさしい日本語』のための分かち書きルール』を作成しました。

はじめて「やさしい日本語」に触れるという方は、まずは「Ⅲ. 『やさしい日本語』文の作り方」をもとに作成してみてください。「やさしい日本語」にする中で、分かち書きについて疑問を持った方や、「やさしい日本語」の作成経験があり、よりわかりやすい「やさしい日本語」を作りたいと考えている方は、どうぞ『やさしい日本語』のための分かち書きルール』を読んでみてください。

この分かち書きルールは外国人留学生21人にアンケートを行い、確実に情報が伝わるか、誤解が生じることはないかなどについての検証をしました。

2013年3月11日に同時に発表した『増補版 災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル』と併せて使っていただければ、幸いです。

2013年3月11日

弘前大学人文学部社会言語学研究室
ゼミ生一同

V 参考文献

- ・東京外国語大学留学生日本語教育センター（1994）『初級日本語Ⅰ』凡人社
- ・スリーエーネットワーク（1998）『みんなの日本語初級Ⅰ本冊』
- ・スリーエーネットワーク（1998）『みんなの日本語初級Ⅱ本冊』
- ・国立国語研究所（2001）『日本語教育のための文法用語』財務省印刷局
- ・秋田谷美代子（2003）「災害時情報のユニバーサルデザイン化」弘前大学人文学部卒業研究
- ・鷹野次長（2004）『外国人のための楽しい日本語辞典』三省堂
- ・小関雅子（2004）「災害時に使える情報弱者のためのやさしい日本語研究—伝えるべき情報と使えることばの検証を中心に—」弘前大学人文学部卒業研究
- ・弘前大学人文学部社会言語学研究室（2013）『増補版 災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル』
- ・斎藤庸子（2006）「台風や風水害時に使える『やさしい日本語』案文に関する一考察—伝えるべき情報とその表現様式について—」弘前大学人文学部卒業研究
- ・「やさしい日本語」研究会（2007）『「やさしい日本語」が外国人の命を救う—情報弱者への情報提供の在り方を考える—』弘前大学人文学部社会言語学研究室
- ・成田有梨沙（2008）『「やさしい日本語」のやさしさに関する一考察—やさしさの基準を小学校教科書に現れる文構造に求め—』弘前大学人文学部卒業研究
- ・佐藤和之（2009）『「やさしい日本語」の構造—社会的ニーズの適用に向けて—』
- ・三浦彩乃（2009）『「やさしい日本語」研究の現状と展望に関する一考察—社会的ニーズに着目して—』弘前大学人文学部卒業研究
- ・狩野絵里香（2012）「平常時における『やさしい日本語』の作成基準の検証に関する一考察—分かち書きと文構造について—」弘前大学人文学部卒業研究
- ・弘前大学社会言語学研究室ホームページ
<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/>
- ・日本語読解学習支援システムリーディングチュウ太ホームページ
<http://language.tiu.ac.jp/>
- ・やんしす：やさしい日本語支援システムホームページ
<http://www.spcom.ecei.tohoku.ac.jp/~aito/YANSIS/>

【研究代表者】

佐藤和之（弘前大学教授）

【弘前大学学生（2008～2012年度在籍・50音順）】

秋山ひかり 栗田菜月 五十嵐純平 石郷岡芽依 伊藤友佳子 今井愛子 岩澤 彩 氏江 南
大坂愛実 小笠原美幸 小縣大輝 長内結希 加賀谷 悠 狩野絵里香 工藤康平 工藤周子
小林彩花 齊藤桂子 境 沙都美 佐々木優希 佐藤美佳子 菅原麻美 鈴木浩美 鈴木真理子
相馬咲恵 田村直子 對馬菜都美 豊間根鮎美 中村香織 成田有梨沙 平川益美 彭 龍
三浦彩乃 三上綾佳 三田綾乃 山口佳織 遊佐 栞 吉田 雅 吉野泰崇

「やさしい日本語」チェックリスト(掲示物用)

外国人にわかりやすい掲示物になっているか確認してみましょう

- 日本語能力試験3・4級程度の簡単な語彙が使われているか
- 1文は1情報になっているか
- 1文は24拍程度になっているか
- 不用意に、カタカナ外来語が使われていないか
- 不用意に、ローマ字が使われていないか
- 二重の否定表現が使われていないか
- 災害時によく使われる難しい語には、言い換え表現が補われているか
- 分かち書きは正しくされているか
- 漢字の使用は1文に3・4字程度で、すべての漢字に振り仮名がふられているか
- 複数の言語で見出しが付いているか
- 見出しは伝えたい情報や動作を指示することばで書かれているか
- 絵は単純で、一目でわかるようになっているか
- 本文に、具体的な動作やその理由が書かれているか
- 作成年は西暦で書かれているか
- 作成した機関名は書かれているか

「やさしい日本語」チェックリスト(読み原稿用)

外国人にわかりやすい読み原稿になっているか確認してみましょう

- 日本語能力試験3・4級程度の簡単な語彙が使われているか
- 1文は1情報になっているか
- 1文は24拍程度になっているか
- 不用意に、カタカナ外来語が使われていないか
- 不用意に、擬音語や擬態語が使われていないか
- 災害時によく使われる難しい語には、言い換え表現が補われているか
- 同音または音の似ている語が使われていないか
- 二重の否定表現が使われていないか
- 文節の切れ目や文と文の間には、ポーズを入れてゆっくりと読んでいるか
- 一語一語をはっきり発音しているか
- 時間、場所、だれが、何をする、「…してください」、「…に注意してください」は繰り返し読んで強調しているか

〈増補版〉「やさしい日本語」作成のためのガイドライン

発行	第1版 平成22年(2010年) 1月17日
	第2版 平成25年(2013年) 3月11日
発行者	弘前大学人文学部社会言語学研究室
発行所	弘前大学人文学部社会言語学研究室 〒036-8590 青森県弘前市文京町1 kokugo@cc.hirosaki-u.ac.jp
印刷	